

## 尾瀬の未来は

福島市・清野 共子

財団が出来て保護と管理が徹底すれば、尾瀬の今後は今までよりも不安と危惧がませつたままです。しかし、現実は何も変わりません。財団が出来ようがボランティアが叫ぼうが、尾瀬に魅せられた人々は、植物達の苦痛も我々の心配もどこ吹く風で、毎年押し掛けます。福島側が入山指導を始めて八年、尾瀬も入山者も随分変わりました。

個人や少人数のグループに関しては、指導の効果なのが意識が向上したのか、装備の点では心配は少なくなりました。しかし、団体客が大幅に増え、シーズンともなりますと大型バスが長蛇の列を作り、道路を塞いで登山口はニッチもサッカーモードであります。尾瀬近郊は言うにおよばず、遠い所から夜行日帰りのハードな日程で、登山口に夜明けを待つて落として行きます。

尾瀬は自然界の超人気スターと言えるでしょう。雨が降ろうが風が吹こうが、日程の決まつた団体スケジュールは、ちょっととのことで変更できません。来年も、その次の年も、訪れる人の数は変わらないでしょう。

尾瀬は自然界的に、いつも頭を痛めている関係者のご苦労ぶりを見るにつけて、どうにかなりないでしよう。多くの問題も未解決のままであります。何よりもまず一番最初に、過剰利用の解決を考えなければなりません。

これから尾瀬が何十年何百年後、湿原から草原に変わつて行くのは自然淘汰としての避けられない運命です。それを早めるような人間の身勝手な手助けを、尾瀬は望んではいるのです。人間風に考えれば尾瀬はかなりの重病人と言えるでしょう。守る会の一員として入山指導を続けながら、尾瀬が長生き出来る方法を考えたのです。これはあくまでも私の単なる思い付です。

ここ数年の間、子供の団体も増えてきました。これは六年生の教科書に尾瀬のことが載つたことも影響しているのでしょう。自然保護、環境問題を突き詰めれば、地球上の全ての生命の関わりにまで広がって行きます。小学生にとっては、とても大きく重い勉強でしょう。まずは実験と、先生は尾瀬を歩いて体験学習をする。それは悪いことではありません。常識として生活

を促すのは簡単ですが、それだけで問題が解決する訳ではありません。こうした入山者でいつも不安と危惧がませつたままであります。この一時集中型の入山を、どうにかして解決しなければならないと思いつきました。八年の間には人命救助の活動も何度もあったのです。もしあの時、私達がその場にいなかつたらどんなことになつたのだろう、と思った事故や怪我人にも遭遇しました。いずれの場合も中高年の団体の入山者でした。

財団は出来たばかり、尾瀬の隅々まで管理の目は行き届きません。まだ大人手は足りないのでしょう。多くの問題も未解決のままであります。

何よりもまず一番最初に、過剰利用の解決を考えなければなりません。

これで尾瀬が何十年何百年後、湿原から草原に変わつて行くのは自然淘汰としての避けられない運命です。それを早めるような人間の身勝手な手助けを、尾瀬は望んではいるのです。人間風に考えれば尾瀬はかなりの重病人と言えるでしょう。守る会の一員として入山指導を続けながら、尾瀬が長生き出来る方法を考えたのです。これはあくまでも私の単なる思い付です。

まず「尾瀬の病気を治すには休息以外無い」と痛切に思つたのです。財団が尾瀬の美しさ、生命の尊さ、その学術的価値を正しく認識し、未来

に促すのは簡単ですが、それだけで問題が解決する訳ではありません。こうした入山者でいつも不安と危惧がませつたままであります。この一時集中型の入山を、どうにかして解決しなければならないと思いつきました。八年の間には人命救助の活動も何度もあったのです。もしあの時、私達がその場にいなかつたらどんなことになつたのだろう、と思った事故や怪我人にも遭遇しました。いずれの場合も中高年の団体の入山者でした。

八年の間には人命救助の活動も何度もあったのです。もしあの時、私達がその場にいなかつたらどんなことになつたのだろう、と思った事故や怪我人にも遭遇しました。いずれの場合も中高年の団体の入山者でした。

習慣や知恵が自然に身に着くように、保護の知識も子供の頃から持つていれば、希少な動植物の数も今まで危機に瀕立を喜んだのです。しかし、現実は何も変わりません。財団が出来ようがボランティアが叫ぼうが、尾瀬に魅せられた人々は、植物達の苦痛も我々の心配もどこ吹く風で、毎年押し掛けます。福島側が入山指導を始めて八年、尾瀬も入山者も随分変わりました。

個人や少人数のグループに関しては、指導の効果なのが意識が向上したのか、装備の点では心配は少なくなりました。しかし、団体客が大幅に増え、シーズンともなりますと大型バスが長蛇の列を作り、道路を塞いで登山口はニッチもサッカーモードであります。尾瀬は自然界的に、いつも頭を痛めている関係者のご苦労ぶりを見るにつけて、どうにかなりないでしよう。多くの問題も未解決のままであります。

何よりもまず一番最初に、過剰利用の解決を考えなければなりません。

これで尾瀬が何十年何百年後、湿原から草原に変わつて行くのは自然淘汰としての避けられない運命です。それを早めるような人間の身勝手な手助けを、尾瀬は望んではいるのです。人間風に考えれば尾瀬はかなりの重病人と言えるでしょう。守る会の一員として入山指導を続けながら、尾瀬が長生き出来る方法を考えたのです。これはあくまでも私の単なる思い付です。

まず「尾瀬の病気を治すには休息以外無い」と痛切に思つたのです。財団が尾瀬の美しさ、生命の尊さ、その学術的価値を正しく認識し、未来

の人々に残すためにも、五年に一回位の「尾瀬の休息年」を作つて、尾瀬の自然回復に頃から持つていれば、希少な動物の数も今まで危機に瀕立を喜んだのです。しかし、現実は何も変わりません。財団が出来ようがボランティアが叫ぼうが、尾瀬に魅せられた人々は、植物達の苦痛も我々の心配もどこ吹く風で、毎年押し掛けます。福島側が入山指導を始めて八年、尾瀬も入山者も随分変わりました。

個人や少人数のグループに関しては、指導の効果なのが意識が向上したのか、装備の点では心配は少なくなりました。しかし、団体客が大幅に増え、シーズンともなりますと大型バスが長蛇の列を作り、道路を塞いで登山口はニッチもサッカーモードであります。尾瀬は自然界的に、いつも頭を痛めている関係者のご苦労ぶりを見るにつけて、どうにかなりないでしよう。多くの問題も未解決のままであります。

何よりもまず一番最初に、過剰利用の解決を考えなければなりません。

これで尾瀬が何十年何百年後、湿原から草原に変わつて行くのは自然淘汰としての避けられない運命です。それを早めるような人間の身勝手な手助けを、尾瀬は望んではいるのです。人間風に考えれば尾瀬はかなりの重病人と言えるでしょう。守る会の一員として入山指導を続けながら、尾瀬が長生き出来る方法を考えたのです。これはあくまでも私の単なる思い付です。

まず「尾瀬の病気を治すには休息以外無い」と痛切に思つたのです。財団が尾瀬の美しさ、生命の尊さ、その学術的価値を正しく認識し、未来

の人々に残すためにも、五年に一回位の「尾瀬の休息年」を作つて、尾瀬の自然回復に頃から持つていれば、希少な動物の数も今まで危機に瀕立を喜んだのです。しかし、現実は何も変わりません。財団が出来ようがボランティアが叫ぼうが、尾瀬に魅せられた人々は、植物達の苦痛も我々の心配もどこ吹く風で、毎年押し掛けます。福島側が入山指導を始めて八年、尾瀬も入山者も随分変わりました。

個人や少人数のグループに関しては、指導の効果なのが意識が向上したのか、装備の点では心配は少なくなりました。しかし、団体客が大幅に増え、シーズンともなりますと大型バスが長蛇の列を作り、道路を塞いで登山口はニッチもサッカーモードであります。尾瀬は自然界的に、いつも頭を痛めている関係者のご苦労ぶりを見るにつけて、どうにかなりないでしよう。多くの問題も未解決のままであります。

何よりもまず一番最初に、過剰利用の解決を考えなければなりません。

これで尾瀬が何十年何百年後、湿原から草原に変わつて行くのは自然淘汰としての避けられない運命です。それを早めるような人間の身勝手な手助けを、尾瀬は望んではいるのです。人間風に考えれば尾瀬はかなりの重病人と言えるでしょう。守る会の一員として入山指導を続けながら、尾瀬が長生き出来る方法を考えたのです。これはあくまでも私の単なる思い付です。

まず「尾瀬の病気を治すには休息以外無い」と痛切に思つたのです。財団が尾瀬の美しさ、生命の尊さ、その学術的価値を正しく認識し、未来

## 尾瀬と私

東京・鈴木 利博

それは、昭和四十六年六月のことであった。私学の生物教員の現地研修が尾瀬で開かれた。私はこの時初めて、神秘の尾瀬に足を踏み入れた。二泊三日の強烈な印象が私の生物教員としての姿勢を変えた。

実は、この時以来、苦手の大きいのではないでしようか。自然保護から福島側の路線バス会社は低公害バスを導入、自然に与える影響を考え、「今後低公害バスを増やしていく予定です」と語っていました。

斐伊ルドワークが楽しみになつた。その切つ掛けが尾瀬の一人の教員との出会いにあつた。私はこの研修で現地の案内と解説を一手に引き受け、いた一人の講師の情熱溢れる行動力とその専門性に刮目した。翌七月には環境庁（初代長官は大石武一氏）が



かり黄色のリュウキンカ、そして有名な水芭蕉の群落、水芭蕉は他にも見られ珍しい植物ではないが、尾瀬には湿原があり、豊かな清流があり、そしてバツクに残雪の山あり、そういうことでその構図が何とも美しい独特的の景観をつくりだしている。この風景が尾瀬の代表として、ポスターやテレビジョンカードに使用され全国的に登山者を招いている。水芭蕉が盛りを過ぎると湿原にはヒメシャクナゲ、タテヤマリンドウ、トキソウ、サワランと可憐な花が美しい。ヒメシャクナゲは立派な木なのに湿原の草花と同じ高さにピンクのスズランのよう咲いている。赤紫のサワラン、淡いピンクのトキソウも実に愛らしい。ナガバノモウセンゴケは尾瀬の他には千島にあるだけという貴重な植物、特にナガバノモウセンゴケとマルバノモウセンゴケさらにサジバノモウセンゴケが同居しているのは世界で尾瀬だけといふ。まことに貴重な植物である。

六月は白い世界の水芭蕉、七月はニッコウキスゲのみかん色の世界、そして八月はカキツバタ、ミズギボウシ、サワギキョウと紫の世界である。尾瀬で命名されたオゼヌマアザミ、オゼヌマタイゲキ、オゼミズギク、オゼコウホネ、

至仏山のオゼソウ等貴重な植物が非常に多い。池塘の中のスターは黄色いオゼコウホネ、白い清楚なヒツジグサも人目をひく。かわった名前のクロバナロウゲ、チョウジギク、トモエシオガマ……白一色のワタスゲやサギスゲ、ミズチドリにウメバチソウ……。高原に秋風が吹く頃になるとワレモコウやミヤマアキノキリソウ、ナナカマドの実が真っ赤になり赤とんぼが飛び交つ頃、湿原は草紅葉となり工房の種類が多くていつ訪れても良い。

至仏にも何回か登ったが、ここは湿原とは異なった蛇紋岩地帯特有の高山植物が多い。広い駐車場を見て来たが、清水と各駐車場がいっぱいになり、これだけ多勢の人が入山するということは、それだけ尾瀬が危ないと感じられる。シーズンの土、日曜日だけでなくマイカーは規制すべきだと思う。特にマイカー族のマナーが悪いと聞くが、騒音と排気ガスをおいていく者もあるといふ。

昨年の六月十日、山と花の案内を頼まれて大清水から尾瀬沼へ登ったがその混雑に驚いた。沼周辺は尾瀬銀座、觀光会社の旗を先頭にぞろぞろとまるで地上の観光地と同じである。同じことが山の鼻から三叉路周辺の尾瀬ヶ原にも云える。私のグループは登る前に尾瀬の重要性、山歩きのマナー等良く学習して来たらし、本当に山の好きな良い方達だった。他のグループの方がついて来て「いつしょに聞かせて

今でも人の少ない季節はずれの尾瀬は静かだ。人のいない分だけ尾瀬を満喫出来るからよい。

六月の水芭蕉のシーズンの混雑はすごい。二〇〇台の鳩待駐車場がいっぱいになり、曲がりくねった路上までびつてしまつて赤とんぼが飛び交つばかり咲かせている。尾瀬は花の種類が多くていつ訪れても良い。

下さい」と羨ましがつっていたが、団体には必ず指導者をつけてあげられたらしいのにと思つた。

車から降りてわずか大道を歩けば原へ出られる沼山峠入り口、鳩待峠入り口からは背広やスカート、足支度も悪く軽装の人がいる。数年前、沼山峠から和服で草履姿の婦人に逢つた時は思わず「尾瀬はそんな支度で来ることではあります」と云つてしまつた。ひどいのは「疲れたからタクシーを呼んでくれ」と笑い話のような事実もある。美しい自然に触れるためには、それなりの用意と覚悟が必要である。都會の観光地を散歩するような気持ちで尾瀬へ来てもらつては困る。尾瀬が魅力的というより観光屋の宣伝と交通が便利になつたことにより無責任な若者や山になれない中高年者が多くなつたのだと思う。私は大清水で「尾瀬は単なる観光ではありません」と貴重な尾瀬、病んでいる尾瀬を説明したあと、ノ瀬まで一時間で歩けない人は本日のグループで登る資格なし、とまで云つて出発する。

北海道の自然保護対策について少々学んで来た。北海道ではボランティアレンジャーを毎年五十人ずつ養成しその指導にあたつているが何しろ広い二人のレンジャーがいて山のことや花の名前など親切に教えてくれて嬉しかった。尾瀬も二人ではない。何とか増やして要所にいて指導してくれたらいいのにと思つた。

今年こそはこれらの花に逢いに行こう。静かな昔の尾瀬は良かつた。

ターセンターが出来ており大変参考になった。時間外だから立派な資料を下さり説明してくれた。尾瀬でも入り口にあつたらしいのにとみんなで話しあつた。

山上の楽園はいま……一昨年の八月、養成講座で久しぶりにアヤメ平へ登つた。至仏山と燧ヶ岳を一望出来る壮大な楽園、天然の池が青空を映し、池塘には可憐な花が咲き特にアヤメ平と云われる程、アヤメの葉に似たキンコウカが大群落をなしている。その樂園が今、踏み荒らされて乾燥し緑を失いひび割れた土地に竹でとめられたコモが地面をおおつてゐる。

又移植したブロツクは傾斜でまわりの泥炭が流され、墓標のように並んでいる。裸地回復作業をはじめて二十年とか。一度破壊された自然是元には戻らない。しかしいろいろ研究を試みミタケスゲの種をまくことにより少しづつではあるが、復元が進んでいるということを本で読み、少しほツとしている。

ゴミ持ち帰り運動の原点尾瀬はいつ行ってもきれいだ。ゴミがない。きれいにしておけば人は散らかさない。この運動をはじめて十数年、ながい地道な活動がようやく実を結んだのである。尾瀬が

山小屋のあり方や今後の問題について

永い歴史の中で尾瀬を開拓し、尾瀬を守ってきたのは山小屋であると思う。これからも山小屋の協力なしには尾瀬の自然は守れないと思う。尾瀬は病んでいる。前ガン症状とまで云われている。その原因が入山者、宿泊者による生活雑排水となれば英断を下るわなればならない。とにかく特別保護地区の山小屋の風呂は一斉に止めもらいたい。山歩きに汗はつきもの、二泊のがまんが出来ないはない。あくまで、旅館ではなく山小屋であるということを忘れてはならない。山小屋の主も従業員も尾瀬の危機を救うために一貫した方針で臨んでもらいたい。

尾瀬の価値はおろか、花の名前さえ知らずに木道を流れるようになり過ぎてゆく登山者も多いと思う。私達、自然保護指導員は本部の指示のもと、横の連絡をとり出来るだけ都合をつけて行事に参加しけれども、一般の人たちの指導にも当たり少しでもお役に立ちたいと思う。

山小屋、汚水処理、入山規制、木道の整備……等、問題は山積している。しかも急を要する。尾瀬の自然保護は、

年金、人口、尾瀬

—あとがきに代えて

今まで云われている。その原因が入山者、宿泊者による生活動雑排水となれば英断をふるわなければならぬ。とにかく特別保護地区の山小屋の風呂は一斉に止めてもらいたい。山歩きに汗はつきもの、二泊のがまんが出来ないはずがない。あくまで、旅館ではなく山小屋であるということを忘れてはならない。山小屋の主も従業員も尾瀬の危機を救うために一貫した方針で臨んでもらいたい。

現在三十五歳未満の人たちが、将来、厚生年金や国民年金を受給する総額は、支払い総額よりも低額で、若ければ若いほどマイナス幅が大きいとされている。この人たちが年金受給年齢に達するのは、段階的に支給開始年齢が引き上げられているため、三十年後からということになるであろう。これは、その頃までわが国の年金制度が破たんせずに存続している、という前提に立つての話である。

も整備されていて高齢者でも歩きやすそうだし、バスに乗れば入山口まで連れて行ってくれるようだし。そんな気分で尾瀬にやつてくるのであるか。

る——という単純計算が成り立つはずである。オーバーユースに何らかの人为的な歯止めをかけないのなら、せめてこうした“自然淘汰？”に託すしかない。もつとも、それには尾瀬が半世紀後も“観光自然”として生き残っている、という前提条件が必要だが……。

を忘れてはならない。山小屋の主も従業員も尾瀬の危機を救うために一貫した方針で臨んでもらいたい。

ろう。これは、その頃までわが国の年金制度が破たんせずに存続している、という前提に立つての話である。

も整備されていて高齢者でも歩きやすそうだし、バスに乗れば入山口まで連れて行ってくれるようだし。そんな気分で尾瀬にやってくるのである。

る」という単純計算が成り立つはずである。オーバーユースに何らかの人为的な歯止めをかけないのなら、せめてこうした“自然淘汰”に託すしかない。もつとも、それは尾瀬が半世紀後も“観光自然”として生き残っている、という前提条件が必要だが……。

尾瀬の価値はおろか、花の名前さえ知らずに木道を流れると、横の連絡をとり出来るだけ都合をつけて行事に参加し一般の人たちの指導にも当たり少しでもお役に立ちたいと思う。

昨年の尾瀬の入山者数は、六十万人とも六十五万人ともいわれる。環境庁のカウント（センサー）では性別、年齢までは把握できないから、このうち年金生活者がどれくらいいるかは明らかではない。が、実際に尾瀬に入山しての印象では、四分の一ぐらいは

も整備されていて高齢者でも歩きやすそうだし、バスに乗れば入山口まで連れて行ってくれるようだし。そんな気分で尾瀬にやつてくるのであるか。

高齢者の入山を否定するつもりはさらさらない。また、年金問題と尾瀬のオーバーユース問題を同列に論ずることもナンセンスであろう。ただ、オーバーユース問題を駆けこまねいて自然破壊の進行を食い止めるのもまた不可能なことは、関係者の誰もが否定できないはずである。

る——という単純計算が成り立つはずである。オーバーユースに何らかの人为的な歯止めをかけないのなら、せめてこうした“自然淘汰？”に託すしかない。もつとも、それに尾瀬が半世紀後も“観光自然”として生き残っている、という前提条件が必要だが……。

最終号だから、ということでは三題ばなしめいた愚にもつかないことを書いてしまった（妄言多謝）。

また、諸般の事情で最終号をお届けするのが遅れたことを、会員の皆さんに深くおわびします。

尾瀬の価値はおろか、花の名前さえ知らずに木道を流れるように通り過ぎてゆく登山者も多いと思う。私達、自然保護指導員は本部の指示のもと、横の連絡をとり出来るだけ都合をつけて行事に参加し一般の人たちの指導にも当たり少しでもお役に立ちたいと思う。

昨年の尾瀬の入山者数は、六十万人とも六十五万人ともいわれる。環境庁のカウント（センサー）では性別、年齢までは把握できないから、このうち年金生活者がどれくらいいるのかは明らかではない。が、実際に尾瀬に入山しての印象では、四分の一ぐらいは占めていそうである。

も整備されていて高齢者でも歩きやすそうだし、バスに乗れば入山口まで連れて行ってくれるようだし。そんな気分で尾瀬にやつてくるのである。

る」という単純計算が成り立つはずである。オーバーユースに何らかの人为的な歯止めをかけないのなら、せめてこうした“自然淘汰”に託すしかない。もともと、それは尾瀬が半世紀後も“観光自然”として生き残っている、然という前提条件が必要だが……。

最終号だから、ということでは三題ばかりいた愚にもつかないことを書いてしまった（妄言多謝）。

また、諸般の事情で最終号をお届けするのが遅れたことを、会員の皆さんに深くおわびします。

最後に編集委員として力を貸していただいた青木安弘、大中睦夫、梅山久夫の三氏とレイアウト、校正を引き受けてくれた平塚延司氏、最後まで面倒をお掛けした㈱マ

山小屋、汚水処理、入山規制、木道の整備……等、問題は山積している。しかも急を要する。尾瀬の自然保護は、

現在三十五歳未満の人たちが、将来、厚生年金や国民年金を受給する総額は、支払った金額よりも低額で、若ければ若いほどマイナス幅が大きいとされている。この人たちが年金受給年齢に達するのは、段階的に支給開始年齢が引き上げられているため、三十年後からということになるであろう。これは、その頃までわが国の年金制度が破たんせずに存続している、という前提に立つての話である。

も整備されていて高齢者で歩きやすそうだし、バスに乗れば入山口まで連れて行ってくれるようだし。そんな気分で尾瀬にやつてくるのであるか。

高齢者の入山を否定するつもりはさらさらない。また、年金問題と尾瀬のオーバーユース問題を同列に論ずることもナンセンスであろう。ただ、オーバーユース問題を躊躇をこまねいて自然破壊の進行を食い止めるのもまた不可能なことは、関係者の誰もが否定できないはずである。

る——という単純計算が成り立つはずである。オーバーユースに何らかの人为的な歯止めをかけないのなら、せめてこうした“自然淘汰？”に託すしかない。もつとも、それには尾瀬が半世紀後も“観光自然”として生き残っている、という前提条件が必要だが……。

最終号だから、ということでお届けするのが遅れたことを、会員の皆さんに深くお詫びします。  
(妄言多謝)。

また、諸般の事情で最終号をお届けするのが遅れたことについて、大中睦夫、梅山久夫の三氏とレイアウト、校正を引き受けくださいった平塚延司氏、最後まで面倒をお掛けした佛伊クロ印刷の武田憲一氏に厚くお礼を申し上げたい。

行政が一方的に方策を決めることではなく、又地元の目先の利害にとらわれないで、民間や自然保護団体の要望を重視

し、強力にその対策に当たつてもらいたい。そしてかけがえのない地球の財産を、尾瀬の自然を、次の世代に引きつ

いと、  
強く強く願うものである。

# 尾瀬の自然を守る会25年の歩み

## 1971（昭和46）年

- 6月20日 尾瀬貫通道路工事のため「岩清水」つぶれる。
- 24日 平野長靖氏朝日新聞に「峠の泉が涸れる」と題し投書。
- 7月1日 環境庁発足。
- 5日 大石武一氏環境庁長官就任。（第3次佐藤内閣）
- 21日 平野長靖氏、大石環境庁長官に陳情。
- 29日～30日 環境庁長官尾瀬視察。車道建設中止を表明。
- 8月1日 尾瀬の自然を破壊から守る会（仮称）結成準備会呼びかけ。  
呼びかけ文「尾瀬の自然を破壊から守ろう！」
- 21日 発会式 虎の門電気ビル 国立公園協会会議室 参加約200名  
名称を「尾瀬の自然を守る会」とする。初代代表 内海廣重氏
- 28日 会の「ニュース」第1号発刊（B4・1枚）
- 9月11日 第2回総会 虎の門電気ビル8階会議室 参加約160名  
会の「ニュース」第2号発刊（B4・1枚）
- 26日 街頭署名運動 全国一斉
- 30日 群馬県議会への署名簿提出 84,116名（協賛73団体）
- 10月2日～3日 沼田駅前から城址公園までデモ行進 約100名  
現地集会（鳩待峠、長沢、八木沢各コースから入山、燧小屋泊～尾瀬沼～三平峠～大清水）登山者にゴミ袋2,000枚配布。ゴミ持ち帰り運動の嚆矢。
- 8日 会の「ニュース」第3号発刊（B4・1枚）
- 9日 第1回尾瀬の夕べ 高崎市中央公民館 参加約200名  
講師 元群馬大学教授 五味礼夫先生 映画「私と尾瀬」等
- 11月1日 会の「ニュース」第3号再刊（B5・8ページ）
- 19日 国の自然公園審議会「尾瀬道路計画」廃止を決定。
- 27日 尾瀬を守るシンポジウム（尾瀬の自然を守る会神奈川県支部発足）
- 12月1日 平野長靖氏急逝。
- 4日 討論集会（幡ヶ谷・渋谷区民会館）、内海代表辞意表明。
- 9日 平野長靖氏告別式（沼田市利根教育記念館）
- 23日 会の連絡先を太田和さん方に定める。木村憲司氏が代表代行を務める。
- 27日 会の「ニュース」第4号発刊（B4・1枚）  
署名運動集計 91,883名（12/27現在）

## 1972（昭和47）年

- 2月3日 長蔵小屋、環境庁へ渡し船廃止を申し出る。
- 10日 尾瀬の現状と将来を考える夕べー故平野長靖氏追悼集会ー（全国自然保护連合共催）

- 於朝日講堂、参加者数800名。挨拶・荒垣秀雄、中村芳男各氏  
パネルディスカッション（大石武一、西丸震也、藤原一絵、木村憲司の各氏）  
映画「尾瀬物語」（池田甚平衛氏制作）上映。
- 3月4日 「尾瀬憲章」第1回制定会議（群馬県庁、内海出席）  
尾瀬沼の渡し船廃止発表（尾瀬林業所有分）  
25日 第3回総会 於代々木区民会館。運営委員会（委員10名）の設置。
- 4月4日 第1回運営委員会（私学会館）。会の今後の運営等について話し合わせる。  
会則の制定を決める。15名参加。
- 5月11日 「尾瀬憲章」制定  
5月24日 第2回運営委員会。11名参加。会則案の検討と尾瀬がかかえている問題提起。  
31日 会のニュース「尾瀬」第5号発刊（B5・5ページ）  
署名運動集計 94,204名（尾瀬の自然を守る会に集められた分のみの集計）
- 6月16日～17日 尾瀬自動車道廃止に伴う自然復元方法を探る調査の実施。  
24日～25日 尾瀬観察会、清掃活動及びごみ持ち帰り運動。  
沼田駅前～富士見下～あやめ平～鳩待峠～山の鼻～十字路（泊）～沼尻～三平下（解散）  
沼田までの車中、沼田駅前、現地にてアピール文とポリ袋2,000枚配布。  
「出羽三山の自然を守る会」から15名参加。
- 7月5日 大石環境庁長官と会談。廃止車道の緑化復元の意見書提出。  
7日 第3回拡大運営委員会。1周年記念特別号作成委員会の設置。  
15日 「尾瀬ニュース」第6号発刊（B5・8ページ）  
尾瀬自動車道廃止に伴う自然復元への意見書  
23日 故平野長靖氏埋葬式（長蔵小屋）。ごみ持ち帰り運動。当会から10名参加。
- 8月4日～6日 故平野長靖氏追悼登山。ごみ持ち帰り運動。10名参加。  
15日 「尾瀬ニュース」第7号発刊（B5・8ページ）  
30日 第4回総会（代々木区民会館）「尾瀬ニュース」（発足一周年記念特集号・B5、20ページ）発刊。尾瀬の自然を守る会会則の決定。会費年額800円。  
幹事の決定（青木照雄、太田和、岸好人、木村憲司、松田美代子の各氏等10名）  
評議員の決定（内海廣重、金田平、中島和、馬場篤、渡辺貞之助の各氏等8名）
- 10月1日 「尾瀬ニュース」第8号発刊（B5・4ページ）  
14日～15日 ごみ持ち帰り運動と車道問題を考える山行。8名参加。  
コース：大清水～三平峠～沼山峠～七入～檜枝岐（泊）御池～沼山峠～尾瀬沼～大清水
- 12月1日 故平野長靖氏1年祭。於一ノ瀬遭難現場。当会から4名参列。  
15日 「尾瀬ニュース」第9号発刊（B5・8ページ）  
19日 群馬県議会で畠土木部長が「岩清水まで二車線自動車道を完成させる」と発言。  
20日 緊急幹事会。  
25日 尾瀬周辺の道路問題に関する公開質問書提出（環境庁、群馬県、福島県）  
28日 「尾瀬ニュース」第10号発刊（ハガキ）

## 1973（昭和48）年

- 1月16日 群馬県庁訪問、畠土木部長、鈴木観光課長（岸、武）
- 20日 尾瀬シンポジウム開催、新宿消費者センターア会議室、参加者30名  
講師 川崎隆章氏「尾瀬自然保護の歴史」  
" 市 雄貴氏「アメリカの自然保護運動」
- 2月1日 「尾瀬ニュース」第11号発刊（B5・8ページ）
- 8日 全国自然保護連合「日本の自然を考えるタベ」朝日講堂、参加者600名  
会から現状報告（木村）
- 12日 環境庁訪問、宇野計画課長（内海、岸、松田、武、青木）
- 26日 群馬県庁訪問、観光課、秘書課、自民党久保田議員、社会党角田議員（岸、青木）  
(県議会における駐車場予算をストップさせるための訴え)
- 3月5日 「尾瀬ニュース」第12号発刊（ハガキ）
- 3月21日 尾瀬を守る連絡協議会（代表・今井勝俊群馬大学教授、12団体）発足  
参加団体：尾瀬の自然を守る群馬大学教官研究者団、日本野鳥の会群馬支部、群馬県自然保護連盟、利根沼田自然を愛する会、群馬県勤労者山岳連盟、高崎勤労者音楽協議会、尾瀬自然保護研究会、日本科学者会議群馬支部、地学団体研究会前橋支部、群馬県高校生物研究会、国分寺遺跡を守る会、尾瀬の自然を守る会。
- 5月21日 「尾瀬ニュース」第13号発刊（B5・4ページ）
- 26日～27日 第3回全国自然保護大会（山形県羽黒山）、坂本環境庁政務次官、宇野課長出席し  
尾瀬車道・駐車場問題で意見交換も行う。（岸、青木参加）
- 8月6日 群馬県が一ノ瀬駐車場（2,200m<sup>2</sup>、70～80台収容、1,400万円）の予算化を発表。
- 7日 環境庁へ抗議行動、江間晴彦自然保護局長に会う。（岸、宮下、松田、青木）
- 17日 地元の大清水小屋、物見小屋から「一ノ瀬駐車場に反対する陳情書」が群馬県知事あて提出される。
- 30日 「尾瀬ニュース」第14号発刊（B5・8ページ）
- 9月17日 自然環境保全審議会委員（44名）に「尾瀬一ノ瀬駐車場に関する要望書」を送付。  
尾瀬の自然を守る会発足2周年記念誌「尾瀬の自然保護」（金田平著）発行。
- 11月14日 尾瀬自然保護研究会と合併。
- 12月25日 「尾瀬ニュース」第15号発刊（B5・8ページ）

## 1974（昭和49）年

- 1月12日 尾瀬自然保護研究会との合併総会（渋谷区大向区民会館）を開く。会の名称は「尾瀬の自然を守る会」とし、機関誌の名称は「尾瀬」とする。代表、宮下孝介氏。  
事務所は、千代田区内神田3-19-10、ソーシャルビル4Fに置く。
- 2月25日 「尾瀬」第1号発刊（B5・8ページ）  
会費（年）1,000円とする。
- 3月25日 「尾瀬」第2号発刊（B5・8ページ）
- 4月20日 第2回総会（渋谷区大向会館）。尾瀬の自然を守る会会則採択。

5月25日 「尾瀬」第3号発刊（B5・8ページ）

25日～26日 第4回全国自然保護連合大会（鳥取県大山）、小山、河内、武参加。

7月31日 事務局移転。

渋谷区宇田川町19-5 山手マンション203号室（住民ひろば）

9月26日 群馬県は、9月定例議会に一ノ瀬駐車場建設整備費1,570万円計上。

27日 環境庁へ抗議行動。尾瀬を守る連絡協議会から今井、山田両群大教授、当会から宮下、岸、内海が参加。宇野課長と2時間にわたり会談。

30日 日本自然保護協会も一ノ瀬駐車場建設設計画撤回を求める意見書を環境庁、群馬県に提出した。

故林哲也会員「一ノ瀬駐車場建設反対」の投書掲載（朝日新聞）

10月9日 「尾瀬」第4号発刊（B5・8ページ）

30日 自然環境保全審議会委員（44名）に「尾瀬・一ノ瀬駐車場建設設計画廃止の要望書」を送付。

11月3日 尾瀬水利対策期成同盟会（群馬、埼玉、東京など関係都県の議員で構成）が尾瀬分水早期実現を決議。

5日 自然環境保全審議会自然公園部会小委員会（河野鎮雄委員長）が環境庁に対して、大清水以降は緊急用と管理用の必要最低限の車に限定する旨の答申を行った。

12月1日 故平野長靖氏三年祭（戸倉）。

14日 福島県議会が尾瀬分水反対を決議。

## 1975（昭和50）年

1月17日 全国自然保護連合主催「第3回日本の自然を考える夕べ」（ヤクルトホール）テーマ「林道と林野行政」問題提起・南アルプス自然保護連合会長青木正博氏 約500人参加。

26日 守る会反省会（上牧温泉）。平野靖子さん出席。

5月15日 「尾瀬」第5号発刊（B5・8ページ）

30日 「はるかな尾瀬」（朝日新聞前橋支局編、実業の日本社発行）出版。

7月6日～8日 至仏山観察会（19人参加、講師・内海廣重、宇沢弘文東大助教授参加）

9月7日 一ノ瀬駐車場建設工事現場視察（内海、岸、青木）

8日 群馬県庁訪問。土木部長、商工労働部長、観光課長と会談（渡辺、内海、岸、青木）

10月5日 「尾瀬」第6号発刊（B5・12ページ）

11月13日 群馬県庁永井商工労働部長と会談（内海、林、宮下）

12月12日 神田群馬県知事、社会党議員の質問に応えて「尾瀬への一般車乗り入れは将来も大清水までとしたい」と答弁。

31日 「尾瀬」第7号発刊（B5・4ページ）

## 1976（昭和51）年

2月27日 尾瀬の夕べ（豊島区民センター）170名参加。

テーマ「航空赤外線写真から見た尾瀬」講師・山田義男群馬大学教授

3月20日 「尾瀬」第8号発刊（B5・12ページ）

4月16日 総会（豊島区民センター）役員改選、新代表に岸好人氏。

他の役員：書記・青木安弘、会計・武繁春、会計監査・松田美代子、渡辺貞之助、連絡所・大田和、幹事・宮下孝介、内海廣重、林哲也、河内輝明、鈴木彰典、八木幸市、市川英夫、富田金彦、大瀧恵津子（合計15名）

6月28日 小沢環境庁長官ビーナスライン美ヶ原線工事再開を承認。

会として長官、自然保護局長、宇野参事官、計画課長あて抗議電報を打つ。

7月20日 「尾瀬」第9号発刊（B5・8ページ）

8月6日～8日 第6回全国自然保護連合大会（札幌市）河内、八木参加。

16日～18日 尾瀬自然観察会（尾瀬ヶ原、尾瀬沼）講師・内海廣重、18人参加。

9月19日 ビーナスライン建設反対署名運動（数寄屋橋公園）。

### 1977（昭和52）年

1月20日 「尾瀬」第10号発刊（B5・8ページ）

4月1日 「尾瀬」第11号発刊（B5・8ページ）

29日～5月1日 尾瀬自然観察会（河内輝明指導）10名参加。

5月29日 総会及び尾瀬のタベ開催（オリンピック記念青少年総合センター）

尾瀬のタベ テーマ「尾瀬の水質汚染」

講師・栗田秀男（渋川高校教諭）、峰村宏（利根農林高校教諭）

6月10日 「尾瀬」第12号発刊（B5・12ページ）

18日～19日 第7回全国自然保護大会（代々木オリンピック記念青少年総合センター）

（岸、河内出席）

### 1978（昭和53）年

2月10日 「尾瀬」第13号発刊（B5・12ページ）

24日 尾瀬のタベ（千代田区民会館）

テーマ「日本の自然全体から見た尾瀬の特質」講師・中坪礼治氏。

5月20日～22日（前期） 第1回尾瀬自然保護指導員養成講座開催。

6月24日～26日（後期） 22名参加。

7月1日～2日 「モリアオガエル及び大峰沼湿原の観察」指導講師・富岡克寛氏。

9月1日 「尾瀬」第14号発刊（B5・4ページ）

会費（年）1,500円とする。

10月29日 尾瀬自然保護指導員養成講座（室内講座、農大一高）

講師・柴田敏隆氏（山階鳥類研究所）

受講生、事務局メンバー合計34名に指導員の身分証明書とワッペン交付。

### 1979（昭和54）年

1月10日 「尾瀬」第15号発刊（B5・4ページ）

会のシンボルバッジに「タムシバ」決まる。デザイン・等々力徹郎氏。

- 2月23日 第4回尾瀬のタベ（麻布公会堂）  
 テーマ「自然保護の思想」講師・沼田真氏（千葉大学教授）
- 5月26日～27日（第1回）環境週間入山指導、ゴミ持ち帰り運動。  
 6月2日～3日（第2回）43名参加。（沼田駅頭、山彦食堂を事務局に使用）
- 6月23日～25日 第2回尾瀬自然保護指導員養成講座開催（前期）。24名参加。
- 7月中旬 団体入山者の指導（指導員14名派遣）
- 8月2日～5日 第1回尾瀬絵画教室（山ノ鼻）講師・等々力徹郎氏。  
 19日～21日 第2回尾瀬自然保護指導員養成講座（後期）
- 10月20日 「尾瀬」第16号発刊（B5・4ページ）

**1980（昭和55）年**

- 2月14日 第5回尾瀬のタベ（代々木八幡区民会館）  
 「自然保護について」講師・青地 晨氏
- 5月25日 海浜植物観察会（千葉成東海岸）  
 30日～31日 ゴミ持ち帰り運動（沼田駅頭），6月6日～7日も
- 6月20日 「尾瀬」第17号発刊（B5・4ページ）  
 平野長英氏吉川英治文化賞受賞。
- 7月13日～14日 至仏山観察会（群馬支部主催）講師・高井昭氏、19名参加。  
 下旬 全国修学旅行研究協会の研修団・団体指導に指導員派遣。
- 8月2日～4日 第2回尾瀬絵画教室（講師・等々力徹郎氏）  
 23日～26日 第3回尾瀬自然保護指導員養成講座開催。
- 9月21日～23日 燐・裏燐観察会（講師・高井 昭氏、25名参加）  
 28日 指導員養成室内講座（農大一高）講師・金田平氏、19名修了（累計69名）
- 10月30日 「尾瀬」第18号発刊（B5・6ページ）
- 11月23日～24日 奥鬼怒スーパー林道視察（11名参加）  
 現地案内：奥鬼怒の自然を守る会・菅俣典史氏

**1981（昭和56）年**

- 1月1日 「尾瀬」第19号発刊（B5・6ページ）、会費（年）2,000円とする。  
 幹事及び役割分担：代表・岸好人、事務局・太田和、内海廣重、会計・松田美代子、記録・武繁春、群馬支部長・市川英夫、編集・河内輝明、阿部秀利、一般・八木幸一、太田政明、丸山正四郎、波止場秀幸、高井昭、伊与久洋子、松村幸雄、横山隆一（計16人）
- 2月1日 大井自然観察会「生物の冬越し、冬鳥と海辺の生き物たちのくたし」講師・横山隆一氏
- 3月1日 指導員・室内講座（農大一高）  
 「生態学の立場から自然保護を考える」三島次郎氏（筑波大学講師）
- 4月1日 事務局移転：世田谷区桜3-33-1 農大一高生物教室  
 「尾瀬」第20号発刊（B5・6ページ）
- 5月3日～5日 雪の尾瀬観察会（群馬支部主催：14名参加）

- 30日 環境週間ゴミ持ち帰り運動（第1回）14名参加（沼田駅頭）
- 6月5日 環境週間ゴミ持ち帰り運動（第2回）16名参加。国立公園協会主催行事に協力。
- 6日 指導員研修会（戸倉・ロッジ長蔵）  
「尾瀬における水質保全について」栗田秀男氏（渋川女子高教諭）15名参加。
- 23日 奥鬼怒スーパー林道を考える夕べ（高崎会館）  
講師：植木方平氏（日光の自然を守る会副会長）約100人参加。
- 7月21日～23日 奥鬼怒スーパー林道総合学術調査  
団長 久保田秀夫（日光の自然を守る会会长・前東大植物園日光分園主任）  
地質 塩田勇夫（前宇都宮大学教授）、郷 和美（大田原女子高教諭）  
植物 橘 郁（牧野植物同好会）、松村幸雄（実践女子高教諭）  
動物 八木幸市（千葉八日市場敬愛高教諭）、戸井田恵二（宇都宮大野鳥の会）  
昆虫 加藤 仁（大田原市紫塚小教頭）、篠本隆志（目白学園中高講師）  
事務局 内海廣重（東京農大一高教諭）  
下旬 尾瀬団体研修団に指導員派遣。
- 8月10日 「尾瀬」第21号発刊（B5・4ページ）  
14日～17日 第4回尾瀬自然保護指導員養成講座開催。27名修了。
- 20日 群馬県国体事務局山岳競技コース説明会（新道建設計画発表）  
28日 清水群馬県知事に奥鬼怒スーパー林道建設に反対する意見書を提出。
- 9月19日 鯨岡環境庁長官、奥鬼怒スーパー林道視察。当会から内海、阿部同行し長官に陳情書手渡す。20日 長官、栗山村役場で最小限の林道建設を認める発言を行う。  
19日～20日 笠ヶ岳学術調査。団長・今井勝俊（群大教授）、当会の指導員参加。
- 29日 群馬県に「笠ヶ岳新登山道建設反対」要請書提出。
- 11月1日 「尾瀬」第22号発刊（B5・4ページ）  
8日 奥鬼怒スーパー林道建設反対の集会とデモ。150名参加。（渋谷から新宿へ）  
12日～17日 尾瀬の自然を守る会結成10周年記念「尾瀬今昔」写真展開催。  
群馬県高崎市・高島屋、入場者4,000人。
- 13日 尾瀬の夕べ開催（高崎市労使会館）200人参加。  
講演「自然の中で考える」中村芳男氏（初代全国自然保護連合理事長）  
映画「奥鬼怒～尾瀬～会津駒」撮影・内藤 実氏（東武興業KK監査役）
- 20日 鯨岡環境庁長官「林道としての建設を認める」旨の発言を行う。
- 21日 群馬支部、関係4団体とともに「奥鬼怒スーパー林道建設に関する質問状」を群馬県知事に手渡す。
- 24日 日光の自然を守る会とともに環境庁に鯨岡長官を訪ね、反対陳情を行う。
- 12月11日 日光の自然を守る会とともに環境庁に原文兵衛新長官を訪ね、反対を申し入れる。  
12日 東京、群馬、栃木で一斉街頭署名運動開始。

1982（昭和57）年

1月1日 「尾瀬」第23号発刊（B5・4ページ）

- 10日 1月例会「日光の自然の中から」講師・植木方平氏（日光の自然を守る会副会長）
- 4月20日 「尾瀬」第24号発刊（B5・4ページ）
- 5月23日～30日 「尾瀬今昔」沼田写真展（沼田市中央公民館）入場者800人。
- 29日 尾瀬の夕べ（沼田市中央公民館）180名参加。  
講演「尾瀬の湿原を語る」菊地慶四郎氏（県立高崎女子高教諭）
- 30日 尾瀬入山実態調査（午前3時～10時、大清水、沼山峠、鳩待峠）23名参加。
- 7月10日 「尾瀬」第25号発刊（B5・4ページ）
- 12日 農林水産大臣及び環境庁長官あて「奥鬼怒スーパー林道建設事業認可に関する質問状」を提出。日光の自然を守る会、尾瀬の自然を守る会、日本自然保護協会。
- 下旬 尾瀬団体研修団への指導員派遣。
- 8月1日 群馬県国体山岳競技コース（笠ヶ岳）現地調査。3名参加。
- 4日～7日 第一回尾瀬自然教室（小5以上高校生対象）15名参加。
- 10日 群馬県森林審議会委員（15名）に「奥鬼怒スーパー林道建設に慎重審議を求める要望書」を提出。高崎自然に親しむ会、利根沼田自然を愛する会、大峰の自然を守る会、尾瀬を守る連絡協議会、尾瀬の自然を守る会群馬支部の5団体連名。
- 14日～17日 第5回尾瀬自然保護指導員養成講座開催。7名修了。
- 10月2日～3日 奥鬼怒自然観察会、講師・久保田秀夫氏（元日光植物園長）。八丁ノ湯泊。
- 10日 「尾瀬」第26号発刊（B5・4ページ）
- 11月27日～28日 猿ヶ京泊にて会の活動総括と今後の行事について話し合う。  
翌日、大峰山観察会。22名参加。

## 1983（昭和58）年

- 1月1日 「尾瀬」第27号発刊（B5・6ページ）
- 30日 総会（農大一高）「尾瀬のトンボ」講師・大森武昭氏  
「これから野鳥の観察法」講師・横山隆一氏
- 4月22日 環境庁、当会の質問状に回答。
- 5月29日、6月5日、11日 環境週間・ゴミ持ち帰り運動。（沼田駅頭）15名参加。  
2,200枚のゴミ袋を配布。
- 6月5日、12日 入山者アンケート（大清水、鳩待峠、沼山峠）
- 20日 「尾瀬」第28号発刊（B5・4ページ）
- 7月 下旬 団体研修団へ指導員派遣。
- 8月4日 本会幹事・林哲也氏死去。
- 9月3日～4日 初秋の峠を結ぶ観察会。（鳩待峠～富士見峠～三平峠）14名参加。
- 10月20日 「尾瀬」第29号発刊（B5・4ページ）  
奥鬼怒スーパー林道反対群馬県自然保護団体連絡協議会結成（7団体）  
高崎自然に親しむ会、利根沼田の自然を愛する会、大峰の自然を守る会、新治の自然を愛する会、浅間研究会、尾瀬を守る連絡協議会、尾瀬の自然を守る会群馬支部。

## 1984(昭和59)年

- 1月1日 「尾瀬」第30号発刊 (B5・4ページ)
- 2月5日 第8回尾瀬のタベ (農大一高)  
「世界の緑と尾瀬」講師・石 弘之氏 (朝日新聞科学部次長)
- 3月14日 見沼用水自然観察会。講師・金子修史氏 (大宮野鳥の会) 20名参加。
- 4月1日 「尾瀬」第31号発刊 (B5・4ページ)  
20日 「尾瀬－山小屋三代記」後藤 允著 (岩波新書) 発行。
- 6月2日～3日 環境週間ゴミ持ち帰り運動 (沼田駅頭)。  
3日午前中アンケート調査 (大清水、鳩待峠、沼山峠)
- 8日～12日 尾瀬今昔写真展 (前橋市公民館)
- 9日 大石武一氏講演「愛する尾瀬」 (前橋市公民館) 約300名参加。
- 10日～12日 大石氏尾瀬視察。(戸倉泊) 鳩待峠～尾瀬ヶ原～裏燧～檜枝岐
- 7月 下旬 団体研修団へ指導員派遣。
- 8月4日 奥鬼怒スーパー林道建設現場 (群馬県側) 調査実施。  
17日～20日 第6回尾瀬自然保護指導員養成講座
- 10月21日 奥鬼怒スーパー林道建設現場 (栃木県側) 調査実施。  
30日 「尾瀬」第32号発刊 (B5・4ページ)
- 11月12日 群馬県知事あて「尾瀬ヶ原観察テラス (休憩所) と解説板 (標柱) についての要望書」を提出。
- 17日 指導員養成講座室内研修会  
「尾瀬をめぐる諸問題」講師・星 一彰氏 (福島県自然保護協会会长)  
映画「尾瀬の春スキー、夏の尾瀬ヶ原」 (内藤実作品)
- 18日 奥鬼怒スーパー林道建設現場 (群馬県側、第2回) 調査実施。
- 12月11日 群馬県議会本会議一般質問、永井鶴二議員が大清水～一ノ瀬間に車を通すよう努力すべきだと質問。
- 15日 「尾瀬」第33号発刊 (B5・4ページ)  
環境庁、尾瀬沼畔に公衆トイレ建設。御池の駐車場拡張される。
- 27日 環境庁へ申し入れ。(内海、飯塚)  
① 大清水～一ノ瀬間の車乗り入れの禁止。  
② 観察テラスと標柱の撤去。

## 1985(昭和60)年

- 3月16日～17日 片品村戸倉雪上観察会 (NHK放映) 指導・横山隆一氏。  
30日 「尾瀬」第34号発刊 (B5・8ページ)
- 5月18日～19日 指導員研修会 (大峰山) 講師・宮前俊男 (利根農林高教諭) 28名参加。  
28日 尾瀬ヶ原湿原観察テラス (休憩所) と解説標柱及びビジターセンター建設についての要望書を環境庁長官へ提出。
- 30日 環境庁、尾瀬沼畔のビジターセンター改築を決定。

- 6月5日 「尾瀬」第35号発刊（B5・8ページ）  
21世紀に引き継ぐために—尾瀬の保護についての提言—
- 7月18日 文化庁長官あて「尾瀬保護に関する要望書」提出。
- 8月8日～11日 第1回高校生自然観察講座。講師・坂井崇浩、生方純夫両氏。7人参加。
- 9日～12日 第7回尾瀬自然保護指導員養成講座。15名修了。
- 9月20日 「尾瀬」第36号発刊（B5・8ページ）  
尾瀬解説ビデオ（NHKサービスセンター制作、13分）
- 10月6日 第3回尾瀬自然保護シンポジウム（福島県文化センター）。30人参加。
- 11月10日 「尾瀬」第37号発刊（B5・8ページ）  
24日 第10回尾瀬の夕べ（農大一高）  
「鳥と人と緑」講師・加藤幸子（作家）、「かわりゆく尾瀬」波戸場秀幸氏
- 12月23日 環境庁日光管理事務所長あて「尾瀬保護についての公開質問」を行った。  
尾瀬の自然を守る会、群馬県自然保護団体連絡協議会、栃木県自然保護団体連絡協議会、福島県自然保護協会、日光の自然を守る会の5団体。

**1986（昭和61）年**

- 1月23日 「尾瀬」第38号発刊（B5・8ページ）
- 2月2日 総会（調布市総合体育館会議室）神代植物公園見学、講師・鳥井恒夫氏。
- 28日 尾瀬を守る懇話会発足（呼びかけ人・大石武一氏、お茶の水・馬事畜産会館）  
(主な出席者) 原 文兵衛、岩垂寿喜男、田 英夫、竹村泰子各国会議員、宮脇 昭（横浜国大環境科学研究センター教授）、岩槻邦男（東大植物園々長）、秋山ちえ子（評論家）、田中澄江（作家）、中本 守（読売新聞編集委員）、清水洋一（毎日新聞科学部長）、斎藤 普（群馬県立女子大教授）、須田敏男（尾瀬林業戸倉支社長）、星 一彰（福島県自然保護協会会长）、内海廣重（尾瀬の自然を守る会事務局長）の各氏
- 3月1日 指導員研修会（農大一高）  
「寒冷地における汚水処理について」講師・宇井 純氏（沖縄大学教授）
- 8日～9日 谷川岳麓雪上観察会実施。約40人参加。  
講師・中島喜代志氏（土合山の家主人）、村山 敏氏（日本自然保護協会指導員）
- 31日 （財）全国修学旅行研究協会30周年にあたり、同会から感謝状受領。
- 4月20日 「尾瀬」第39号発刊（B5・8ページ）  
26日 公開講座「尾瀬自然保護原論」（信濃町・健保会館）  
パネラー 金田 平、宇井 純、内海廣重各氏
- 30日 尾瀬を守る懇話会第2回会合（馬事畜産会館）。  
小委員会（委員長・門司正三東大名誉教授）発足。
- 6月7日 第11回尾瀬の夕べ（高崎市労使会館）  
「尾瀬沼の富栄養化について」講師・氏家淳雄氏（群馬県衛生公害研究所長）
- 21日～22日 奥鬼怒スーパー林道建設現場（栃木県側）視察及び鬼怒沼湿原観察。  
講師・藤原 信（宇都宮大学教授）

- 21日～22日 尾瀬教員研修会「生態系や自然環境保全の学習の場と位置づけ」  
内海、河内両指導員。
- 7月5日 平標、仙ノ倉自然観察会（林ふさ子指導員）
- 12日～13日 至仏山観察会（高井昭指導員）
- 20日 「尾瀬」第40号発刊（B5・8ページ）
- 22日 第1回尾瀬を守る懇話会小委員会
- 8月8日～11日 第8回尾瀬自然保護指導員養成講座（担当・武指導員）4名修了。
- 8日～10日 第2回高校生自然観察講座（担当・坂井、矢根両指導員）7人参加。
- 9月10日 第2回尾瀬を守る懇話会小委員会
- 11月8日 第3回尾瀬を守る懇話会小委員会  
レクチャー「尾瀬の湿原について」藤原一絵氏（横国大環境科学センター）
- 10日 「尾瀬」第41号発刊（B5・8ページ）
- 29日 第12回尾瀬のタベ（中野サンプラザ）約100名参加。  
「尾瀬の自然を守る会発足のころ」中村芳男氏  
「尾瀬の自然をめぐって」大石武一氏  
ビデオ「尾瀬の自然」について・加藤久晴氏（日本TVディレクター）
- 12月7日 第4回尾瀬をめぐる自然保護シンポジウム（群馬大学）

## 1987（昭和62）年

- 2月7日 「尾瀬沼に繁殖しつつある帰化水草コカナダモの除去について」を環境庁長官へ他の自然保護団体と連名で申し入れる。
- 10日 会報「尾瀬の自然」第42号発刊（B5・8ページ）  
特集「第12回尾瀬のタベ・会創立15周年記念」  
ビデオ「尾瀬の自然ー美しい遺産を守るためにー」（30分日本テレビ制作）
- 22日 総会 場所 上野動物園 21名参加。
- 3月17日 尾瀬を守る懇話会第3回全体会議（馬事畜産会館）
- 5月22日 第4回尾瀬を守る懇話会小委員会  
30日 尾瀬ごみ持ち帰り運動「ごみ袋配布」場所 沼田駅。17名参加。  
31日 尾瀬ごみ持ち帰り運動「ごみ袋配布」場所 沼田駅。7名参加。
- 6月1日 会報「尾瀬の自然」第43号発刊（ポケット判）  
特集「尾瀬の診断マップ」・昔の尾瀬の写真・尾瀬QアンドA。
- 6日 尾瀬ごみ持ち帰り運動「ごみ袋配布」場所 大清水口。
- 7月9日 群馬県議会は尾瀬分水を求める意見書を採択。
- 8月3日 「尾瀬分水計画の即時撤回を求める申し入れ書」を群馬県知事へ提出。  
群馬県自然保護団体連絡協議会、福島県自然保護協会、栃木県自然保護団体連絡協議会、尾瀬の自然を守る会。
- 7日～10日 第9回尾瀬自然保護指導員養成講座 16名受講。（飯塚、坂井、早川指導員）
- 18日 第5回尾瀬を守る懇話会小委員会

- 29日～30日 水問題シンポジウム（湯之谷村）約300名参加。  
当会から飯塚、平井、青木の3名参加。
- 9月26日～27日 至仏山研究観察会 15名参加。至仏山の登山道等を調査。
- 10月15日 会報「尾瀬の自然」第44号発刊（B5・8ページ）  
特集「尾瀬分水計画の即時撤回」  
「尾瀬は病んでいる」（加藤久晴著、大月書店刊）出版。
- 24日 奥鬼怒スーパー林道工事現場（群馬県側）視察。13名参加。  
当会から内海、飯塚、梅山、波戸場、関口の5名参加。
- 11月15日 尾瀬自然保護指導員養成講座・室内講座 場所東京農大一高  
講演「尾瀬の新しい見方」講師 齊藤普先生（群馬県立女子大学教授）
- 29日 第5回尾瀬周辺自然保護シンポジウム（宇都宮大学）約100名参加。  
当会から11名参加（坂井指導員より至仏山の破壊の現状を報告）
- 12月19日 尾瀬を守る懇話会第4回全体会議（馬事畜産会館）  
(東大工学部中西準子氏より、尾瀬集水域内での汚水処理問題の研究調査の一部が報告される)
- 25日 会報「尾瀬の自然」第45号発刊（B5・8ページ）  
特集「至仏山研究観察会報告」

## 1988（昭和63）年

- 1月18日 長蔵小屋二代目御主人の平野長英氏逝去。84歳。
- 24日 講演会「アヤメ平の回復作業20年」講師 菊地慶四郎先生（群馬県立武尊高校教諭）場所前橋市中央公民館 25名参加。
- 2月28日 総会 場所 電力館（渋谷）21名参加。  
明治神宮の森観察会
- 4月15日 会報「尾瀬の自然」第46号発刊（B5・8ページ）  
「アヤメ平は、よみがえるか？」菊地慶四郎氏
- 29日～30日 指導員研修会「入山者指導に向けた、指導員の研修」場所 宝川・朝日小屋 22名参加。
- 5月29日 尾瀬ごみ持ち帰り運動「ごみ袋配布」場所 沼田駅 7名参加。
- 30日 尾瀬を守る懇話会全体会議（衆議院議員会館）
- 30日 「尾瀬の保護についての提言」をまとめ環境庁に提出。  
自然保護局長の山内豊徳氏が対応した。
- 6月4日 尾瀬ごみ持ち帰り運動「ごみ袋配布」場所 沼田駅 7名参加。
- 6月11日 尾瀬ごみ持ち帰り運動「ごみ袋配布」場所 鳩待峠 3名参加。
- 7月15日 会報「尾瀬の自然」第47号発刊（B5・8ページ）  
特集「尾瀬を守る懇話会の提言」
- 22日～28日 第1回入山者指導 のべ85名参加。宿泊所として尾瀬林業の社員寮を借用。戸倉～鳩待峠の会員制バスに乗り自然保護を目的にした入山者指導を実施。

8月12日～15日 第10回尾瀬自然保護指導員養成講座 18名受講。（河内、平井指導員）

11月13日 尾瀬自然保護指導員養成講座・室内講座 場所東京農大一高

講演「国立公園の話」講師・大井道夫氏（国立公園協会理事長）

### 1989（平成元）年

---

2月5日 総会 場所 国立自然教育園（目黒） 40名参加。

会の代表に内海廣重氏、事務局長に児玉芳郎氏を専任。顧問に大石武一氏。

25日 会報「尾瀬の自然」第48号発刊（B5・12ページ）

「国立公園の話」大井道夫氏

4月25日 「日光国立公園尾瀬地区保全対策推進連絡協議会」（環境庁、地元の県、村で構成）は、今年からの対策として①至仏山から山の鼻への登山道を閉鎖する。

②主要な登山口で赤外線センサーによる利用者数の計測をする。

29日 第1回冬期スキー実態調査 場所尾瀬沼 8名の指導員が調査。（梅山指導員）

5月5日 第1回冬期スキー実態調査 場所尾瀬ヶ原 5名の指導員が調査。（梅山指導員）

13日 毎日新聞前橋支局主催の講演会で大石武一氏が「はるかな尾瀬」で講演。

場所 群馬県民会館小ホール （開山100年、国立公園55年記念）

27日～28日 山小屋利用状況実態調査

27日 会報「尾瀬の自然」第49号発刊（B5・12ページ）

特集「追悼・等々力徹郎の世界」

29日 冬期スキー実態調査の結果をまとめて、環境庁日光国立公園管理事務所へ申し入れる。

6月3日 指導員研修会「アヤメ平観察会」講師・須藤志成幸氏 28名参加。

4日 入山者指導のための研修を戸倉で。

10日 尾瀬ごみ持ち帰り運動「ごみ袋配布」場所 鳩待峠 5名参加。

7月8日～9日 南会津 田代山観察会（大中指導員）

11日 環境庁が入園料構想を発表。

（来年度から入園を有料化して、受益者負担のシステムを導入したい）

15日～17日 環境庁の入園料構想に対し群馬県知事・檜枝岐村議会が反対。

17日 環境庁に対して、入園料の使途等についての5項目の質問書を提出。

20日 環境庁の入園料構想に対し片品村議会が反対。

21日 群馬県知事に対して、将来的な保護計画についての質問書を提出。

21日～23日 第2回入山者指導① 群馬 12名参加。宿泊所は尾瀬林業の社員寮を借用。

23日～8月4日 第1回海外研修・国立公園の旅「カナダ・アメリカの国立公園」（内海代表他参加）

28日～30日 第2回入山者指導② 群馬 9名参加。

7月下旬 全修協研修団体现地指導案内（高井、狩谷指導員他参加）

8月4日～6日 第2回入山者指導③ 群馬 9名参加。

11日～13日 第2回入山者指導④ 群馬 12名参加。

14日～17日 第11回尾瀬自然保護指導員養成講座 22名受講。（河内、児玉、波戸場指導員）